

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	リサイクル収集推進一般事業	会計	一般会計	事業No.	342	施策順No.	56-007
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-2-1-10-1		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	56 廃棄物の減量と適正処理			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)		106630	105691	105036	107000	
		総ごみ量(ごみ収集量+直接搬入量)		31420	29604	29153	35100	
意図		・ごみの減量						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	ごみ収集量(t/年)	24259	23757	22515	25200	22041	25100	A
	再資源化率(%)	33.5	33.7	35.6	35.2	35.7	35.9	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	ごみを適正に分別することにより、収集量が減少し、再資源化率が向上した。また、資源物回収団体へ補助金を交付することにより、再資源化率が向上した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	ごみ処理手数料制度(ごみ処理費用負担制度)を運用する。 ・ごみ処理手数料証紙を印刷し、メーカーにごみ袋証紙、問屋にシール証紙を出荷し、問屋を通してごみ処理手数料を回収する。 資源物回収団体を支援する。 ・資源物のリサイクルと廃棄物処理量の減少を図るため、再利用可能なもの(新聞・段ボール・雑誌その他古紙類)の回収を行う団体に対して補助金を交付する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	リサイクル収集推進事業(ごみ減量推進事業) 1 証紙取扱手数料業務(問屋、小売店) 2 出荷管理票貼付等業務(袋作成メーカー) 3 資源物(古紙)団体回収補助事業(新聞紙、段ボール紙、雑誌その他紙) 4 ボランティア用ごみ袋の交付	1 証紙取扱枚数 (袋付き証紙、シール証紙合計) 2 貼付枚数 3 団体回収資源量 4 交付枚数	1 2,697,757枚 2 263,320枚 3 1,183t 4 6,379枚
23年度実施計画	リサイクル収集推進事業(ごみ減量推進事業) 1 証紙取扱手数料業務(問屋、小売店) 2 出荷管理票貼付等業務(袋作成メーカー) 3 資源物(古紙)団体回収補助事業(新聞紙、段ボール紙、雑誌その他紙) 4 ボランティア用ごみ袋の交付	1 証紙取扱枚数 (袋付き証紙、シール証紙合計) 2 貼付枚数 3 団体回収資源量 4 交付枚数	1 2,729,600枚 2 272,960枚 3 1,500t 4 4,000枚

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (そ)ごみ処理手数料7,528千円、諸収入2千円
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他		8,370	7,530	7,147	
一般財源		15,640	13,675	15,640		
計(A)		24,010	21,205	22,787		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			21,205			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理手数料が高いという意見がある。 ・家庭系一般廃棄物と事業系一般廃棄物の区分を徹底する必要がある。 ・事業系一般廃棄物の処分方法について、市役所で指導してほしいと要望がある。 ・飯田市資源物回収団体協議会の会員による団体回収は紙資源の再利用に協力的であり、地域活動に貢献している。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	適正に処理・リサイクルされる	施策の成果指標又はムトス指標	ごみの収集量 再資源化率
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	資源ごみを分別することにより処分ごみの減量と再資源化率の向上を図った。 資源物回収団体へ補助金を交付することにより再資源化率の向上を図った。		
	後期に向けた課題	リサイクル拡大の検討。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	資源ごみは無料であり、処分ごみの処理費用の一部を負担してもらうことは妥当。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	①資源物回収団体による回収。 ②資源物回収団体連絡協議会の開催及び補助金交付。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	ごみ処理費用負担制度によりごみの適正処理を図った。 資源物回収団体へ補助金を交付することにより再資源化率の向上を図った。		
	後期に向けた課題			

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------